



理研ビタミン株式会社

証券コード：4526

2025年度 第2四半期（中間期）決算説明会

2025年11月25日

1. 2025年度 第2四半期（中間期）業績
2. 2025年度 通期業績見通し・今後の取り組み

- 売上高**472**億円（前年同期比+0.2%）
営業利益**40**億円（前年同期比▲11.6%）
- 国内事業の営業利益は広告宣伝費の減少などにより
前年同期を上回る
- 海外事業は中国での販売不振が業績を下押し
東南アジアや欧州では価格競争が激しさを増す

- 売上高は前年同期より増加も、期初予想を17億円下回る
- 親会社株主に帰属する中間純利益は3.3%増加

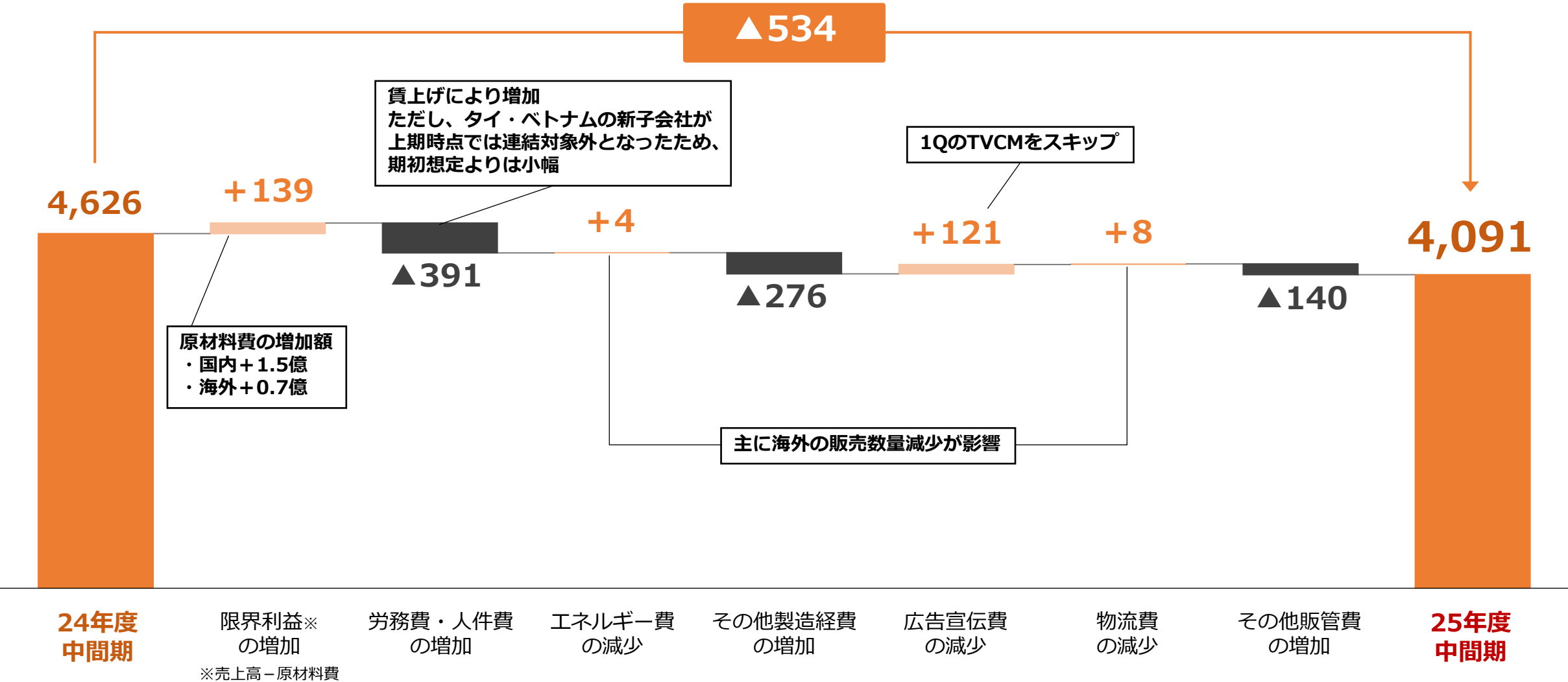
(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期	増減額	増減率	期初予想
売上高	47,149	47,265	+ 115	+ 0.2%	49,000
営業利益	4,626	4,091	▲ 534	▲ 11.6%	4,000
営業利益率	9.8%	8.7%	▲ 0.9pt		8.2%
EBITDA (営業利益 + 減価償却費)	6,202	5,772	▲ 429	▲ 6.9%	-
親会社株主に帰属する中間純利益	3,255	3,361	+ 106	+ 3.3%	2,900

為替影響額：売上高▲177百万円、営業利益▲17百万円

期中平均レート：2024年度中間期 152円/\$、2025年度中間期 146円/\$

・ 売上高の伸び悩みによりコストアップを吸収できず減益

単位：百万円



- ・ 投資有価証券売却益は前年同期より減少も、計画に対しては上振れ
- ・ 特別損失の減少により中間純利益は前年を上回る

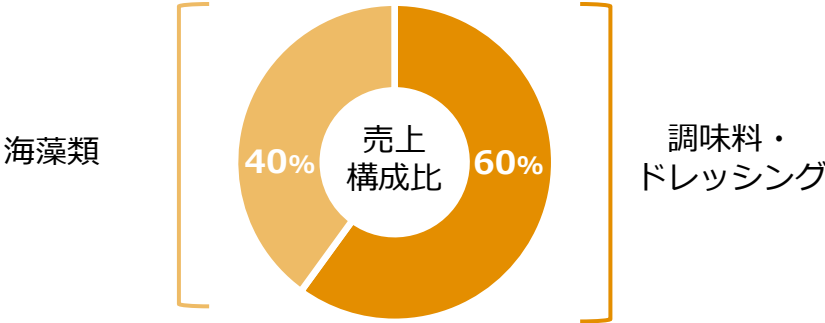
(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期	増減額	主な増減要因（前年同期比）
営業利益	4,626	4,091	▲534	
営業外収益	642	497	▲144	受取配当金（▲151）
営業外費用	481	220	▲261	為替差損（▲262）
経常利益	4,786	4,368	▲417	
特別利益	681	400	▲281	投資有価証券売却益（▲245）
特別損失	961	240	▲720	退職給付制度改定損（▲680）
税引前利益	4,507	4,528	+ 21	
法人税等	1,250	1,164	▲85	
非支配株主に帰属する中間純利益	2	2	+ 0	
親会社株主に帰属する中間純利益	3,255	3,361	+ 106	

・ 国内食品事業、国内化成品その他事業は増収増益

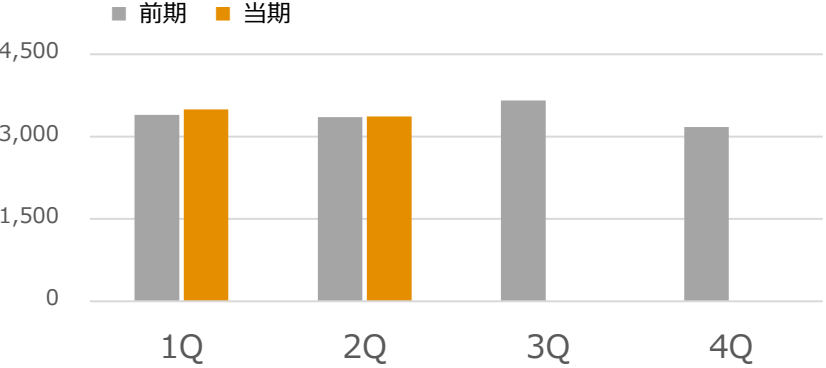
(百万円)		2024年度 中間期*	2025年度 中間期	増減額	増減率	期初予想
国内食品事業	売上高	32,267	32,785	+ 517	+ 1.6%	33,700
	営業利益	3,495	3,531	+ 36	+ 1.0%	3,420
	営業利益率	10.8%	10.8%	▲0pt		10.1%
家庭用食品	売上高	6,754	6,861	+ 107	+ 1.6%	7,000
	業務用食品	売上高	11,415	+ 39	+ 0.3%	11,700
	加工食品用原料等	売上高	14,098	+ 370	+ 2.6%	15,000
国内化成品その他事業	売上高	3,874	4,219	+ 345	+ 8.9%	4,200
	営業利益	427	471	+ 44	+ 10.3%	400
	営業利益率	11.0%	11.2%	+ 0.2pt		9.5%
海外事業	売上高	11,582	11,149	▲432	▲3.7%	11,800
	営業利益	638	81	▲556	▲87.2%	200
	営業利益率	5.5%	0.7%	▲4.8pt		1.7%

- ・ オイル入りドレッシング、わかめスープなどの販売が伸長
- ・ 高付加価値品の販売増や広告宣伝費の減少などにより営業利益は増加

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期
売上高	6,754	6,861 ↗



売上高の四半期推移



【品群別の概況】

リケンのノンオイル



金額：減少 ↘
数量：減少 ↘

TVCMや販促施策を実施するも
販売数量を伸ばせず

ふえるわかめちゃん



金額：増加 ↗
数量：減少 ↘

国産は販売低調
比較的安価な韓国産は伸長

オイル入りドレッシング



金額：大幅増 ↗
数量：大幅増 ↗

24年8月発売の新商品※が牽引
※洋食屋さんのただただおいしいドレッシング

わかめスープ



金額：増加 ↗
数量：増加 ↗

25年2月発売の新商品※が貢献
※焼肉屋さんのユッケジャンスープ

素材力だし



金額：堅調 →
数量：堅調 →

前期は1QにTVCMを実施
当期はTVCM無しで実績を維持

ふりかけるザクザクわかめ

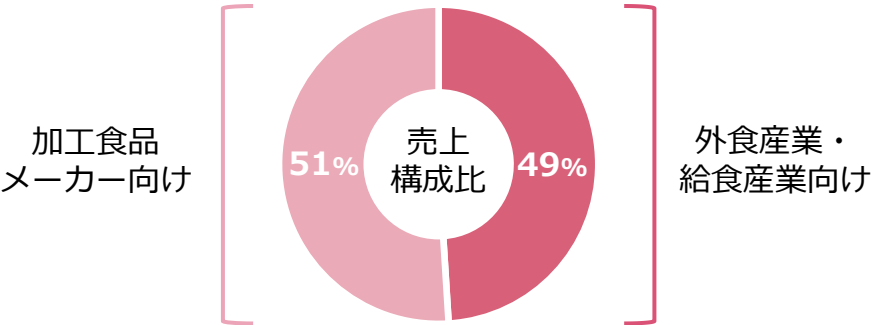


金額：大幅減 ↘
数量：大幅減 ↘

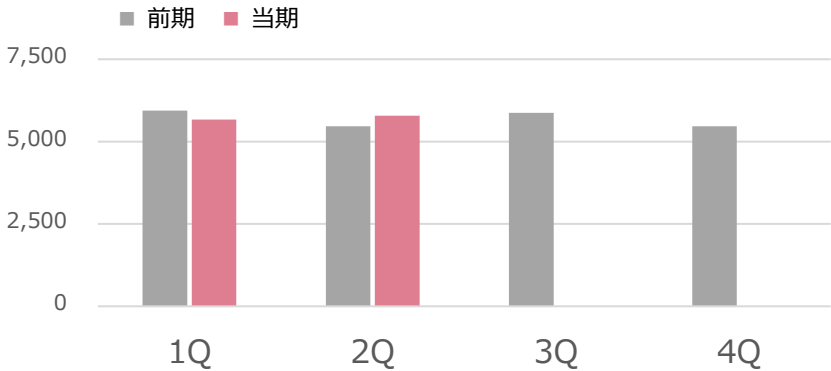
コメの喫食機会減少が影響し
前年同期比10%以上の数量減

- 外食産業向けは大手チェーン季節限定品の反動減を除き堅調
- 一部加工食品メーカー向けの販売減や各種コストの増加により減益

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期
売上高	11,415	11,454 ↗

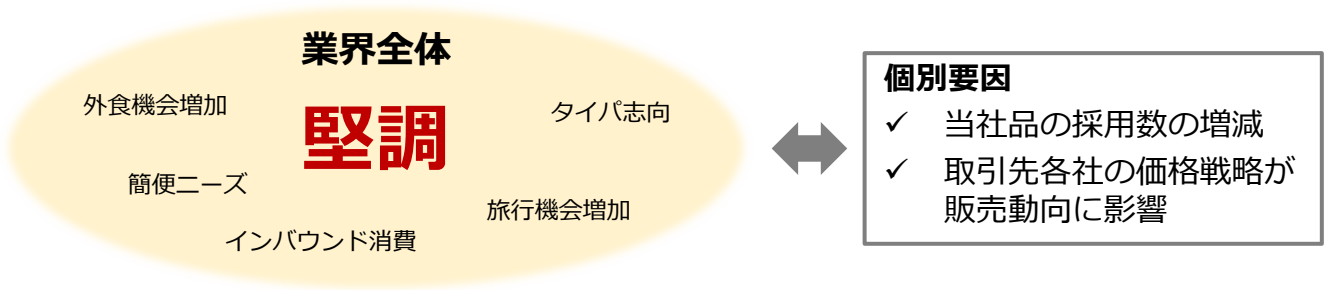


売上高の四半期推移



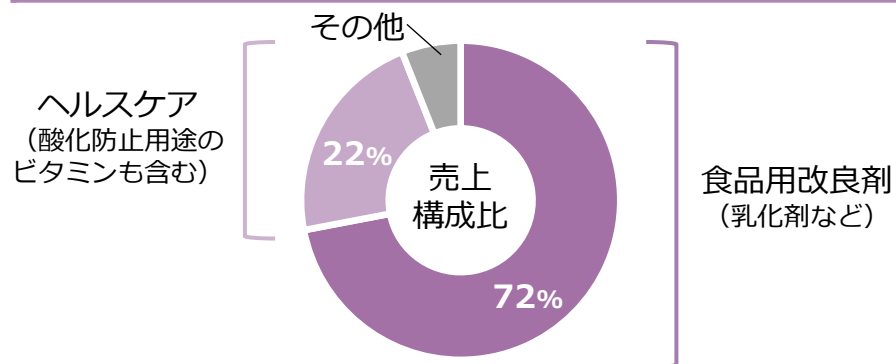
【取引先業界別の概況】

- 外食産業・給食産業向け
 - 1Qは季節限定品の採用減少が影響
業界全体の需要は底堅く推移
 - 7月に92品、9月に52品の価格改定を実施
品目整理と代替品への統合も進め、収益力を強化
- 加工食品メーカー向け
 - 消費者の節約意識の高まりから一部顧客において最終製品（即席麺など）の販売数量が減少
 - CVS向けの海藻商品、麺用ほぐれ剤などが伸長

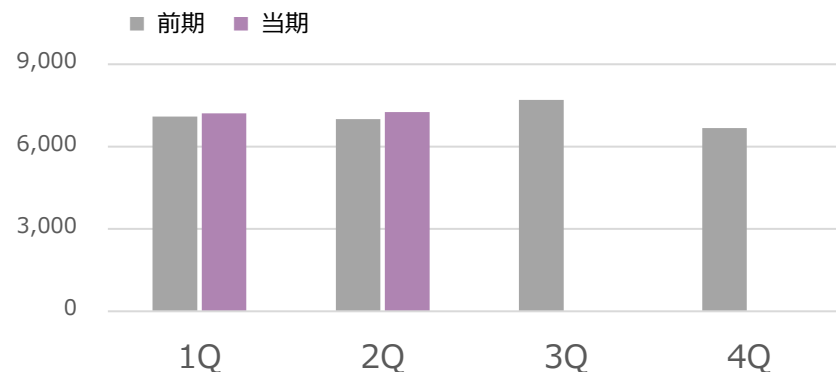


- ・ 改良剤、ヘルスケア分野とも売上高は増加
- ・ 価格改定効果の浸透に時間を要し、減益

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期
売上高	14,098	14,469 ↗



売上高の四半期推移



【製品群別の概況】

● 食品用改良剤

- ・ 主力の製パン用は数量・金額とも伸長
- ・ コメ価格高騰の影響を受け、和食関連の業界は不調



● ビタミン

- ・ 酸化防止用は加工油脂向けの需要が減少
- ・ 健康食品メーカー向けや医薬用は伸長
- ・ ビタミン全体の売上は前年同期を上回る



● その他ヘルスケア商品

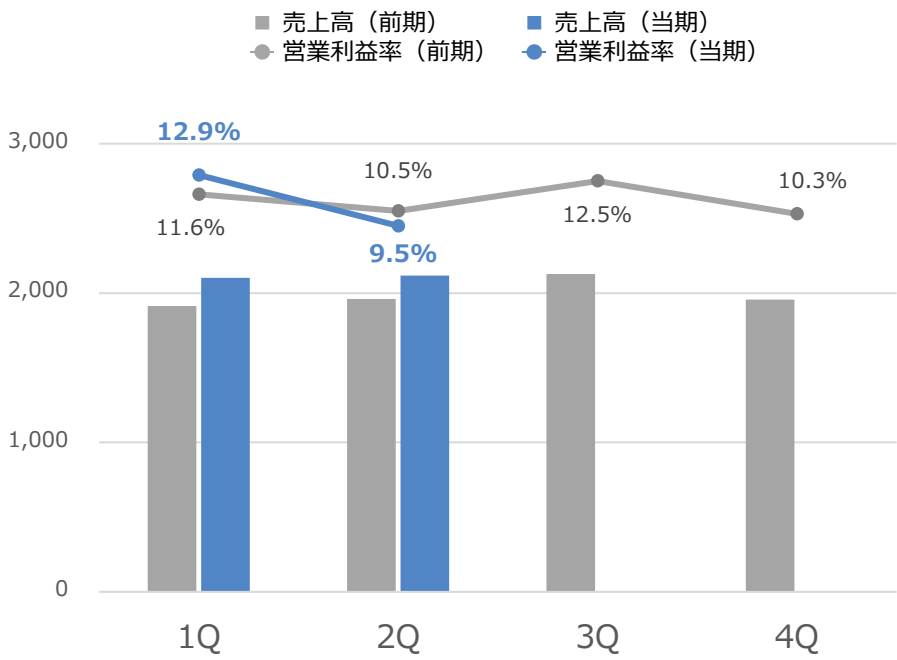
- ・ クロセチンは飲料や健康食品への採用が拡大
- ・ マイクロカプセルは食品用が伸長



- 化粧品業界向けの販売伸長や新規需要の取り込みにより増収
- 増収効果や工場稼働率の改善により増益

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期
売上高	3,874	4,219 ↗
営業利益	427	471 ↗

売上高・営業利益率の四半期推移



【取引先業界別の概況】



- 新規採用や、海外市場向けの需要※の取り込みにより販売伸長

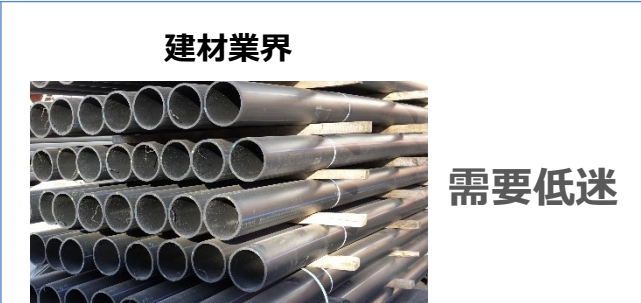
※販売先は国内企業



- 国産樹脂に代えて安価な輸入樹脂を使用するメーカーが増加
- 輸入樹脂用として当社改良剤の需要が増加



市場動向
不安定

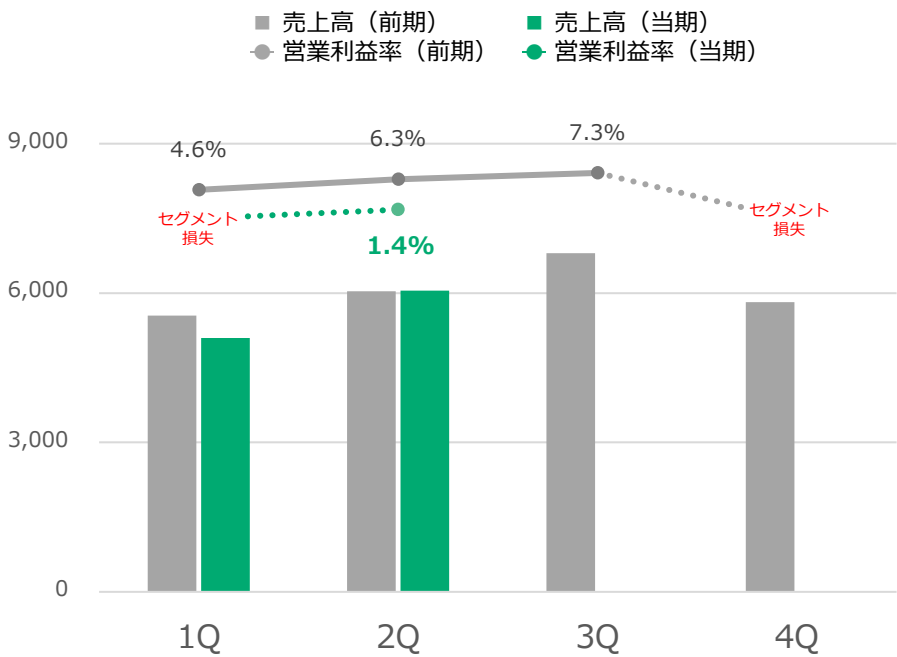


需要低迷

- 中国では化成品向けコモディティ品の生産終了も影響し、売上高が大幅減
- マレーシア、天津の工場稼働減により営業利益は低迷

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期
売上高	11,582	11,149 ↘
営業利益※	638	81 ↘

売上高・営業利益率の四半期推移



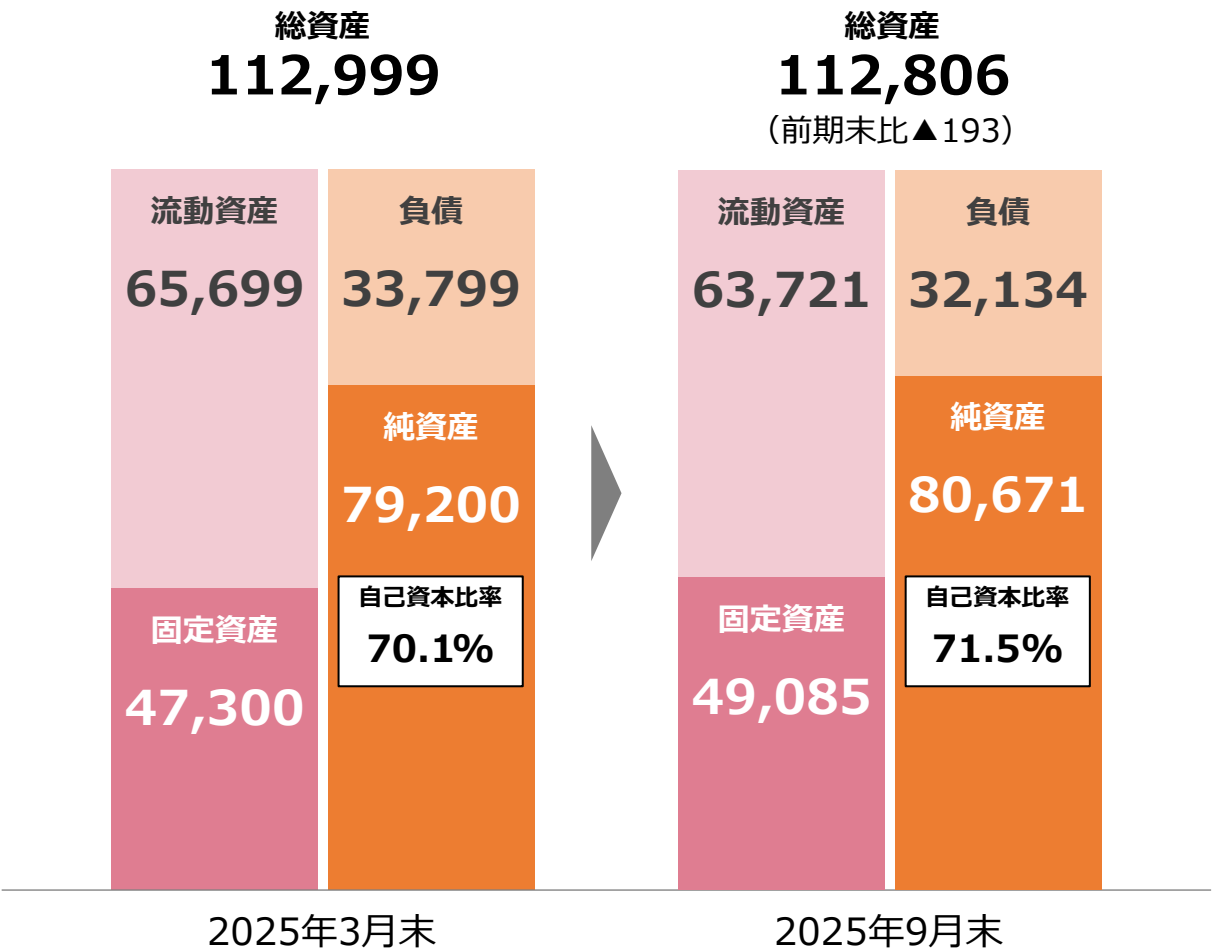
【エリア別の概況】

- 中国：大幅減収
 - 中国経済全体の冷え込みが続き、需要が低迷
 - 新工場への生産移管を進行中
- アジア：減収
 - 東南アジアで価格競争激化により販売数量が減少
 - 台湾・韓国は増収
- 北米：微増収
 - 1Qは取引先の在庫調整により売上減も、2Qに回復
 - ベーカリー向け製剤やエキスの販売が伸長
- 欧州：減収
 - 価格競争の激化や中東の情勢不安が影響

※セグメント利益の測定方法変更による影響額
2024年度中間期：▲294百万円、2025年度中間期：▲293百万円

- ・ 現預金の減少などにより総資産は若干減少
- ・ 長期借入金の返済や純資産の増加により自己資本比率が上昇

単位：百万円



(百万円)	増減額	備考
流動資産	▲1,978	
現金及び預金	▲4,979	棚卸資産の増加や設備投資費用の支払いなどが影響
棚卸資産	+ 2,689	スポット品の製造などにより増加
固定資産	+ 1,784	
有形固定資産	+ 704	
投資有価証券	+ 1,039	株価上昇により評価額が増加
負債合計	▲1,664	
長期借入金	▲1,309	返済により減少
純資産合計	+ 1,470	
利益剰余金	+ 1,752	

1. 2025年度 第2四半期（中間期）業績
2. 2025年度 通期業績見通し・今後の取り組み

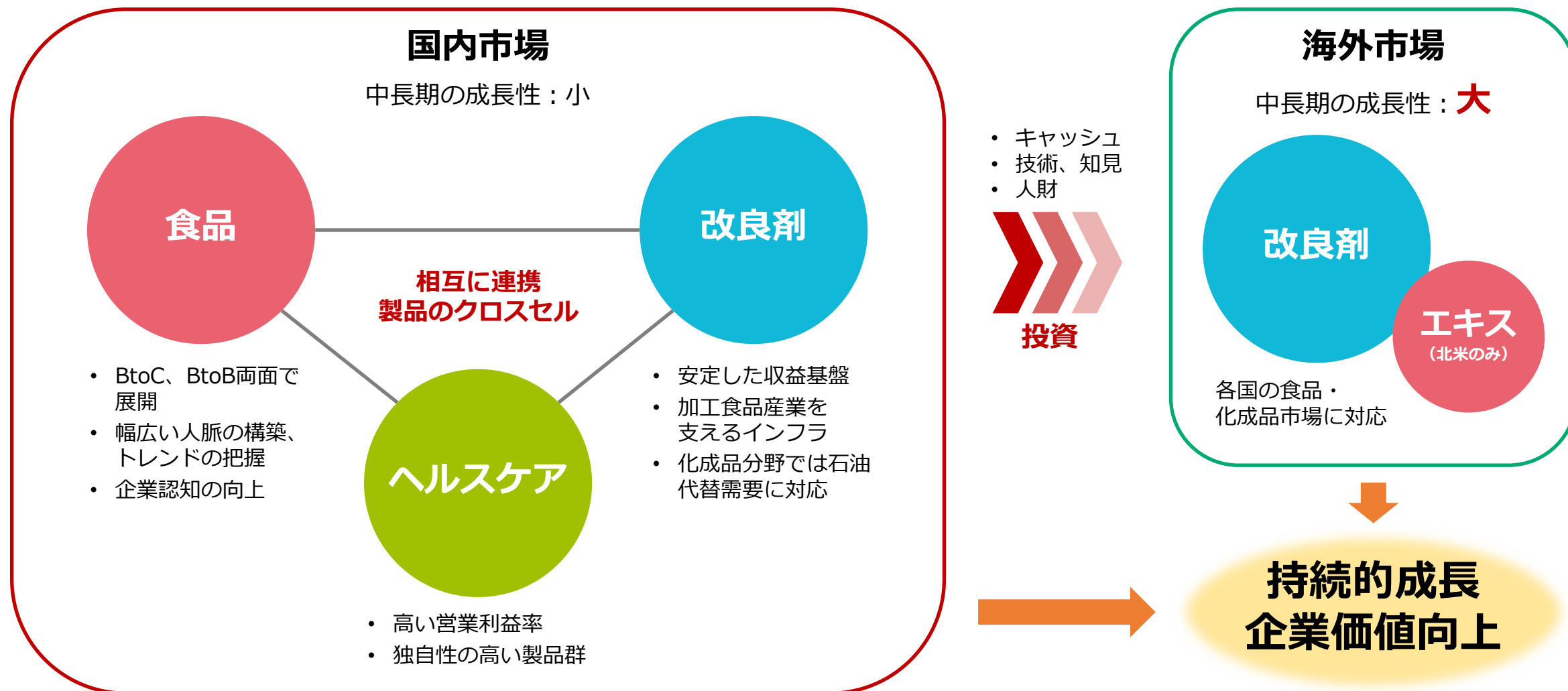
- 海外の事業環境は厳しい。ただし、海外を軸とする中長期の成長ストーリーは変わらない
- 北米や東南アジアでの生産・販売体制を強化し中長期の成長に向けた基盤を整備
- 通期業績予想は期初予想を据え置く
売上高のハードルはやや高いが、利益面はインライン

- ・ 前中計の3年間で着実に株価は上昇
- ・ ただし直近のPERは10倍台で、成長期待を十分に醸成できていない



※2022年3月31日終値（当社株価：1,677円、TOPIX：1,946.40）を100として数値化

- ・ 国内は食品・改良剤・ヘルスケアのシナジーで安定的に成長
- ・ 生み出したキャッシュ、培った技術などを海外市場へ投資



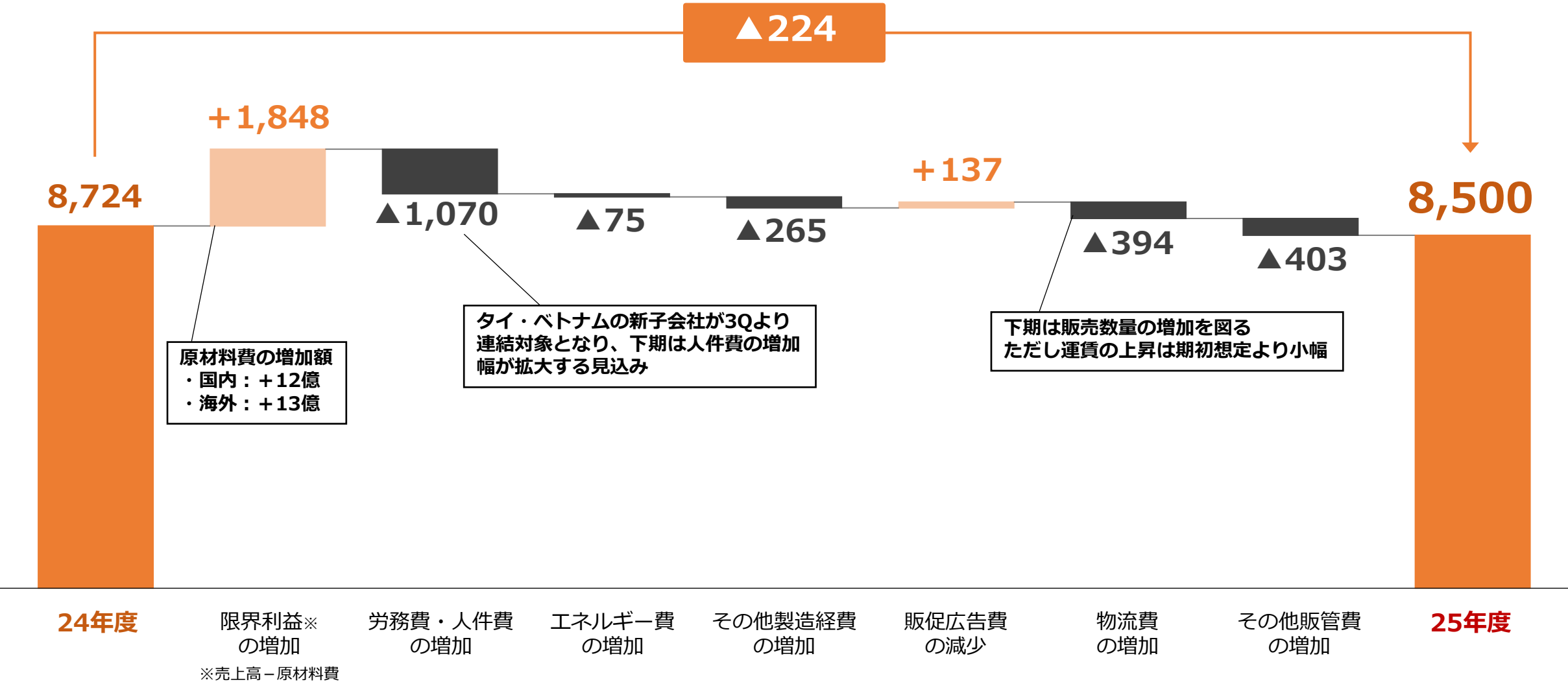
- 初の売上高1,000億円台を目指す
- 特別利益の減少が当期純利益に影響するも、ROEは10%以上を維持

(百万円)	2024年度 実績	2025年度 予想	増減額	増減率
売上高	95,582	100,000	+ 4,417	+ 4.6%
営業利益	8,724	8,500	▲ 224	▲ 2.6%
営業利益率	9.1%	8.5%	▲ 0.6pt	
EBITDA (営業利益 + 減価償却費)	11,928	12,000	+ 71	+ 0.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	9,388	8,200	▲ 1,188	▲ 12.7%
ROE	12.1%	10.2%	▲ 1.8pt	

為替前提：150円／ドル

- コスト構造はやや変わるが、結果的に期初予想並みの着地を見込む

単位：百万円



・ 国内外とも上期実績を上回る売上高が必要

(百万円)		2025年度 中間期 (A)	(B) – (A)	2025年度 通期予想 (B)
国内食品事業	売上高	32,785	34,614	67,400
	営業利益	3,531	3,518	7,050
	営業利益率	10.8%	10.2%	10.5%
家庭用食品	売上高	6,861	7,138	14,000
	売上高	11,454	11,945	23,400
	売上高	14,469	15,530	30,000
国内化成品その他事業	売上高	4,219	4,480	8,700
	営業利益	471	378	850
	営業利益率	11.2%	8.5%	9.8%
海外事業	売上高	11,149	14,150	25,300
	営業利益	81	568	650
	営業利益率	0.7%	4.0%	2.6%

← 売上高の増加による
粗利獲得が必須

- 家庭用はターゲットを明確にした販促策や新商品の育成に注力
- BtoB分野では価格改定による収益改善と成長市場への提案強化を進める

(百万円)	2024年度	2025年度 予想
売上高	64,821	67,400 ↗
営業利益	6,659	7,050 ↗

家庭用食品



- ドレッシングは9～10月に人気アーティストとのコラボ企画を実施
- 素材力だしは10～11月にTVCMを実施



- 下味冷凍用おかずの素「パッとジュッと」シリーズなど新商品群の店頭露出増を図る

業務用食品

ふえるわかめ 花ざいく。三陸産 赤ラベル



良質の三陸産わかめを食べやすい大きさにカットしてありますので、いろいろな料理の具や青味として手軽に使い、メニューを一段と引き立てます。50～100倍（重量比）の水で5～8分間戻すと10倍以上（重量比）になります。

こちらで販売中 amazon

使用例	うどん・そば等の麺類の青味、ラーメン、酢の物等
容量・規格	(200gチャック付袋×2)/箱×5

当社ウェブサイトより

- EC市場の活用などによるBtoC展開
- 中食市場への提案強化（セントラルキッチン・プロセスセンター、CVSなど）
- No.1ブランドを持つ加工食品メーカーとの取引拡大

加工食品用原料等



ビタミンミックス新製造棟▶

- 若手社員育成によりソリューション営業力強化
 - 食品用改良剤の技術研修
 - 生産設備の勉強会
- 製パン、製粉、製菓など好調な業界への提案を強化
- ビタミンミックス増産に向けた拡売

- ・ 上期進捗は順調、下期も大きなマイナス要因は無し
- ・ 価格改定の着実な遂行と新規テーマの早期実績化で上積みを図る

(百万円)	2024年度	2025年度 予想
売上高	7,959	8,700 ↗
営業利益	895	850 ↘

業績見通しのポイント

- 上期の市場環境は期初想定と異なるも、新規実績などで不調分野をカバー
- 下期もコスト高は続くが、現時点で想定される大きなマイナス要因は無し

価格改定が着実に進めば
通期予想は十分達成可能

【新規テーマの例】

食品容器用 塗布型防曇剤



- ・ 樹脂自体に練り込むタイプでは既にトップシェア
- ・ 樹脂表面に塗布するタイプでもシェア獲得を図る

他社との協業

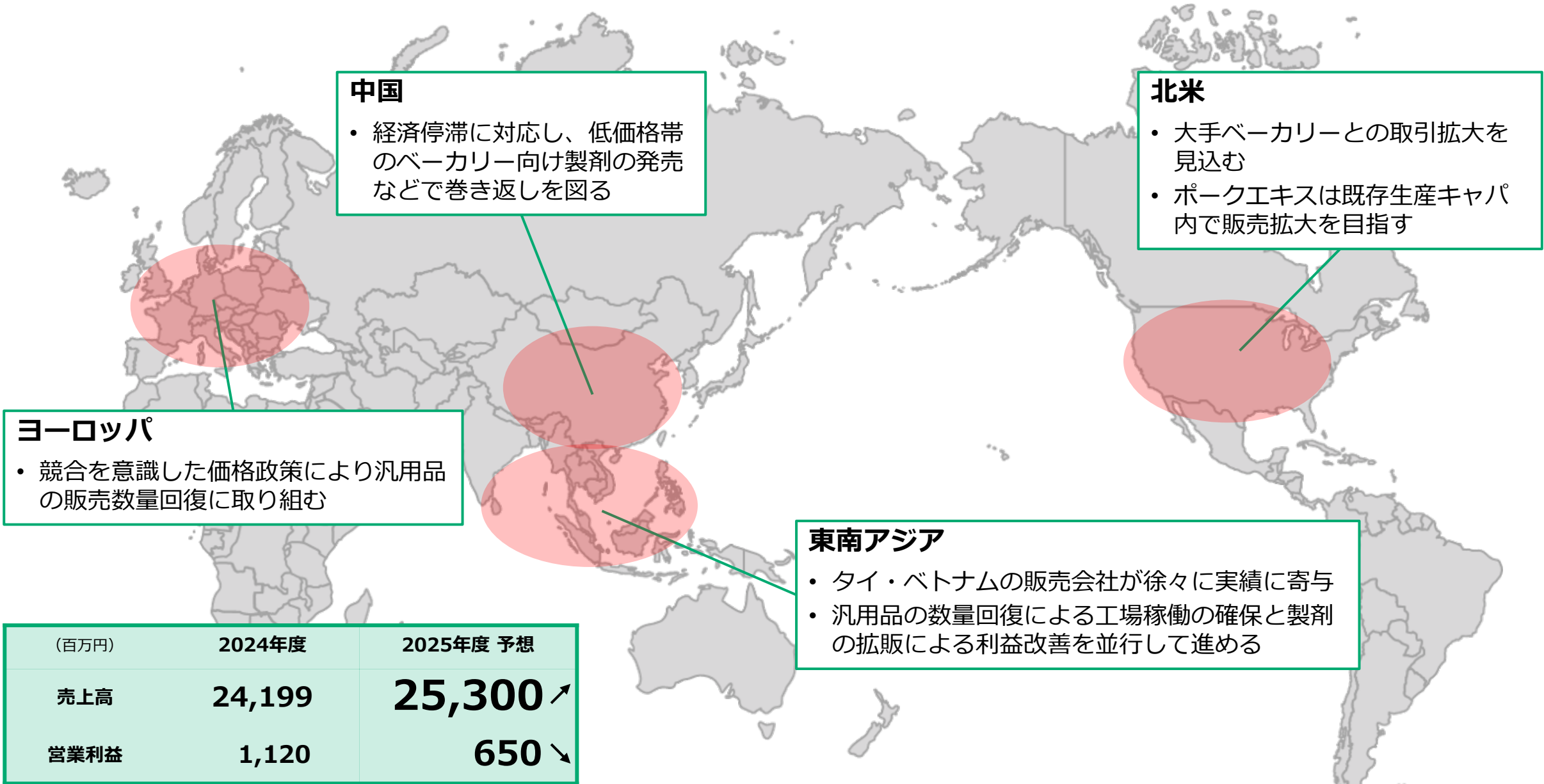


- ・ リソースを再配分し、得意分野への注力と業務効率化を図る
- ・ 化粧品業界への販売などでは他社との協業も検討

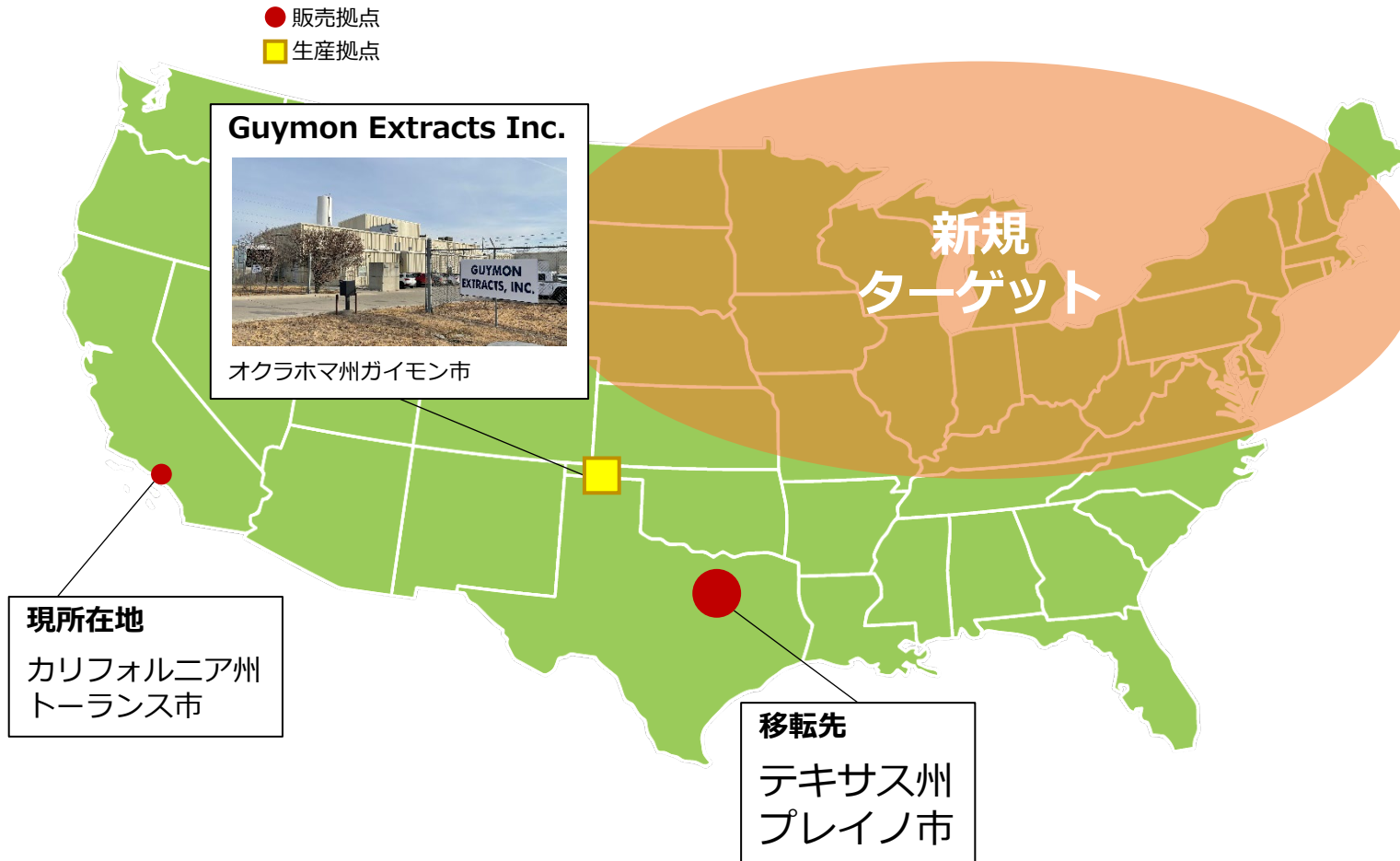
環境対応製品の拡販



- ・ 植物由来の可塑剤、相溶化剤などを住宅資材向けに提案
- ・ 中長期的な石油由来製品からの需要のシフトを見据える



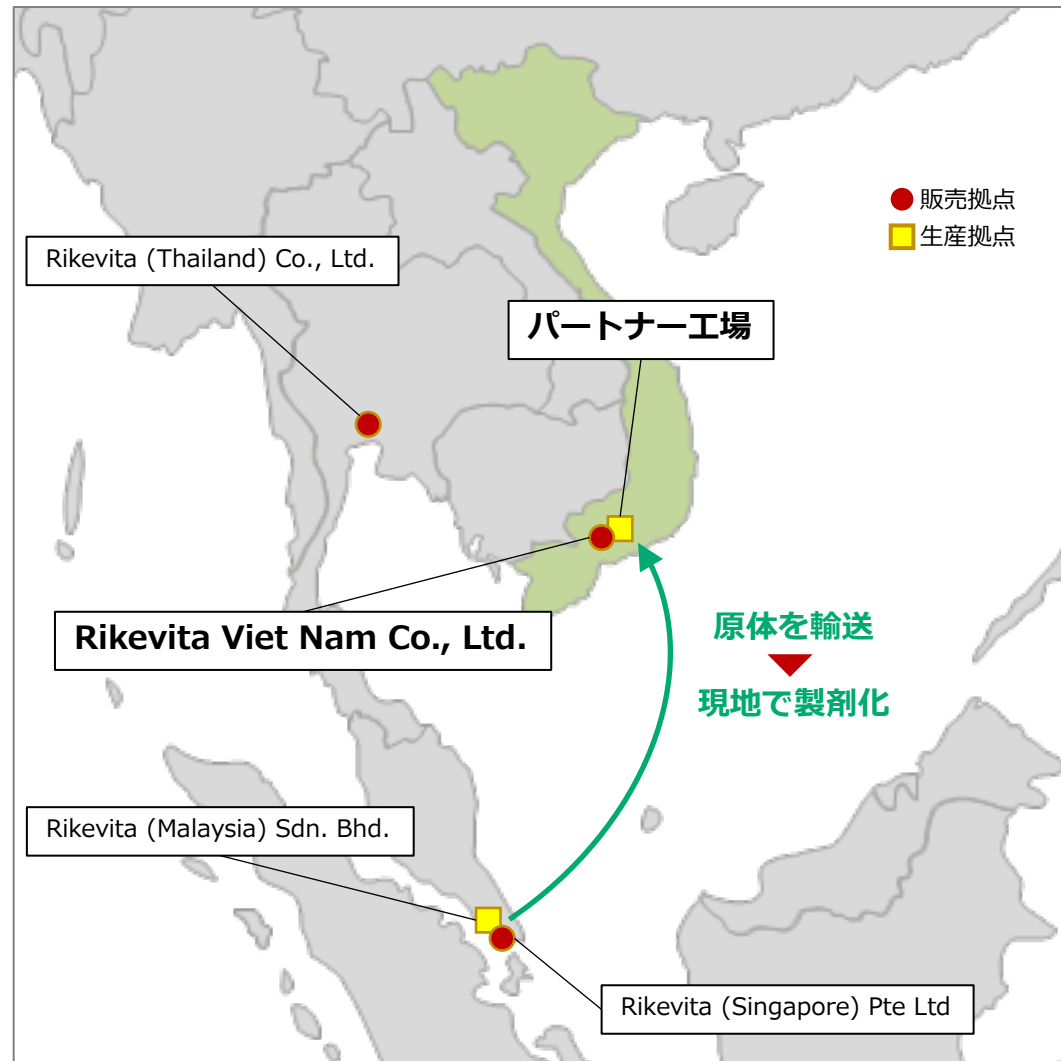
- Riken Vitamin USA, Inc.をカリフォルニア州からテキサス州に移転
- 移転完了は2026年度第1四半期を予定



- ✓ 新規ターゲット地域（米国東部、中西部）へのアクセス向上
- ✓ ポークエキス生産拠点にも近接
- ✓ アプリケーションセンターの規模拡大を予定
- ✓ 将来的には近隣エリアでの製剤生産も検討

改良剤・エキス双方の
売上拡大へ

・ 現地生産により、ニーズ対応力を向上



東南アジアでの製剤販売プロセス

- ① マレーシアで乳化剤原体（汎用品）を生産
- ② マレーシアで原体を加工し、顧客のニーズに合った製剤を生産
- ③ 東南アジア各国に輸出



課題

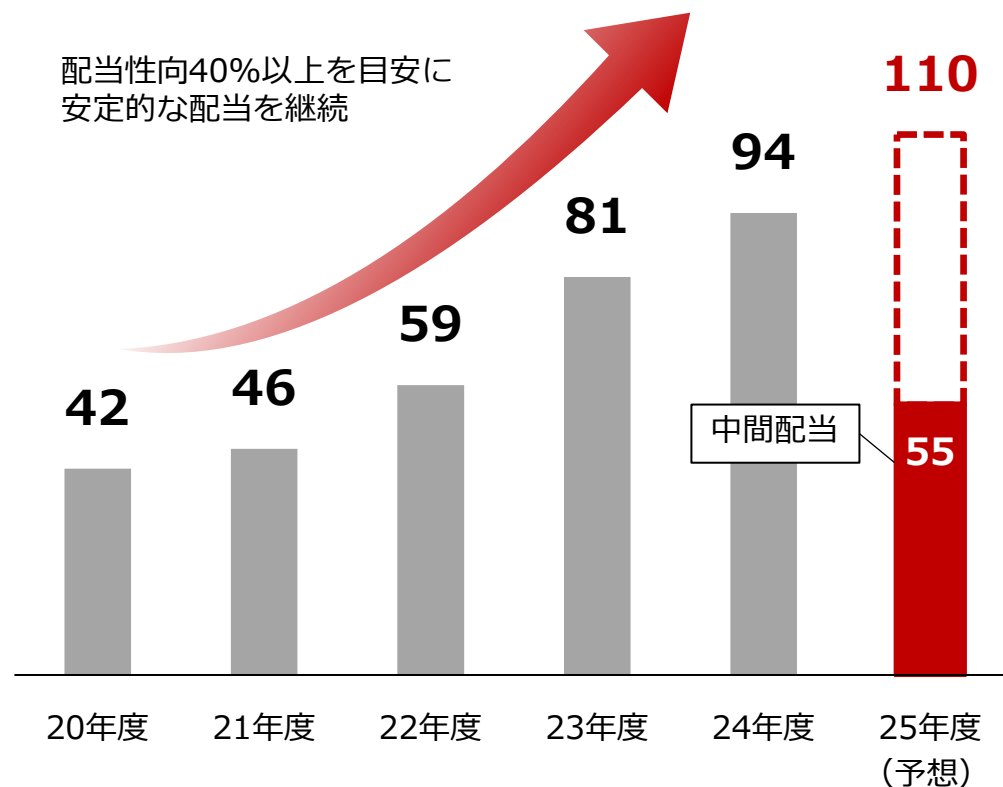
- ✓ マレーシア工場の既存設備は少量多品種の製剤生産には不向き
- ✓ 国ごと、顧客ごとの細かなニーズへの網羅的な対応が困難

現地生産

- ・ 製剤生産の効率化
- ・ 現地のニーズに柔軟に対応
- ・ 取引サイクルの加速

- 配当予想は変更無し
- 自己株式取得（20億円）は順調に進行中

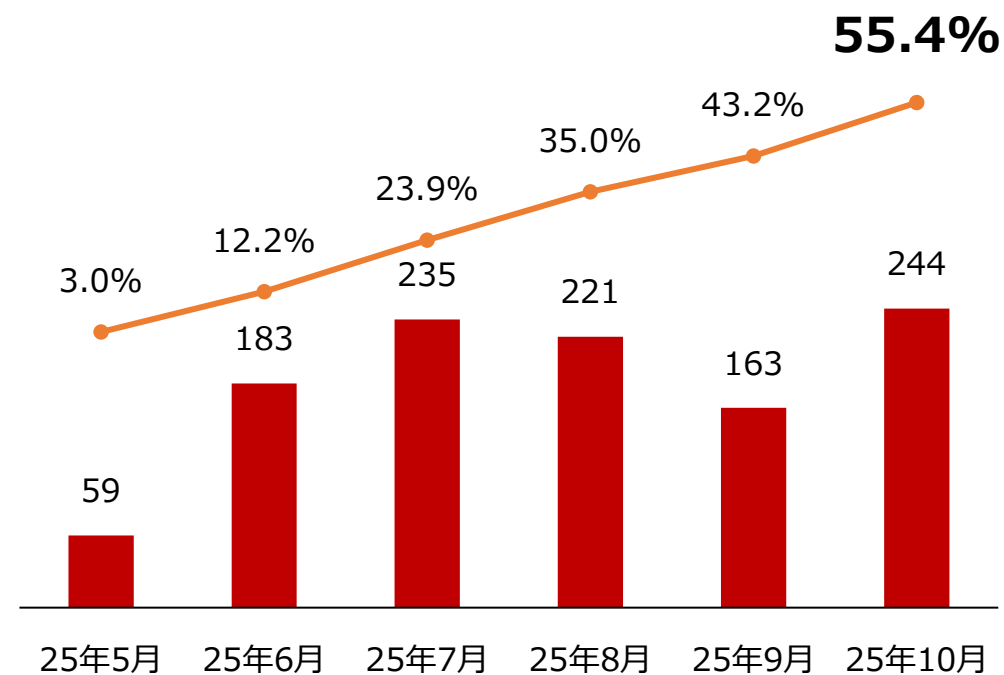
1株当たり年間配当金推移(円)



自己株式の取得状況

■ 取得金額（百万円）

● 取得枠に対する進捗率（累計）



持続可能な社会を スペシャリティな製品とサービスで支え、 成長する会社になる



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は今後さまざまな要因により、大きく異なる結果となる可能性があります。

お問い合わせ先：広報 I R 部 pr_ir@rikenvitamin.jp

補足資料

・ 棚卸資産の増加などにより営業CFは減少

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期	増減額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,836	713	▲2,122	フリー・キャッシュ・フロー 2024年度 中間期 2,007 ↓ ▲201 2025年度 中間期 1,805
退職給付に係る資産および負債の増減額	350	▲322	▲672	
棚卸資産の増減額	▲520	▲2,666	▲2,145	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲828	1,092	+1,920	
定期預金の払戻による収入	1,261	3,279	+2,018	
有形固定資産の取得による支出	▲2,166	▲2,678	▲511	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,984	▲3,739	▲755	
短期借入金の純増減額	▲160	+51	+211	
自己株式の取得による支出	▲0	▲863	▲863	
現金及び現金同等物の中間期末残高	19,632	16,840	▲2,791	

(百万円)		2024年度 実績*	2025年度 予想	増減額	増減率
国内食品事業	売上高	64,821	67,400	+ 2,578	+ 4.0%
	営業利益	6,659	7,050	+ 390	+ 5.9%
	営業利益率	10.3%	10.5%	+ 0.2pt	
	家庭用食品	売上高	14,000	+ 413	+ 3.0%
	業務用食品	売上高	23,400	+ 644	+ 2.8%
	加工食品用原料等	売上高	30,000	+ 1,519	+ 5.3%
国内化成品その他事業	売上高	7,959	8,700	+ 740	+ 9.3%
	営業利益	895	850	▲45	▲5.0%
	営業利益率	11.2%	9.8%	▲1.4pt	
海外事業	売上高	24,199	25,300	+ 1,100	+ 4.5%
	営業利益	1,120	650	▲470	▲42.0%
	営業利益率	4.6%	2.6%	▲2.0pt	

*当期よりセグメント営業利益の測定方法を変更。2024年度中間期の営業利益は変更後の測定方法に基づいて作成した数値

(百万円)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 予想
売上高	88,072	87,181	89,515	89,024	82,974	77,722	79,231	88,750	91,484	95,582	100,000
前期比増減率	2.9%	▲ 1.0%	2.7%	▲ 0.5%	▲ 6.8%	▲ 6.3%	1.9%	12.0%	3.1%	4.5%	4.6%
営業利益	6,007	6,820	5,424	4,580	5,307	1,367	5,840	7,158	9,371	8,724	8,500
前期比増減率	30.3%	13.5%	▲ 20.5%	▲ 15.6%	15.9%	▲ 74.2%	327.2%	22.6%	30.9%	▲ 6.9%	▲ 2.6%
売上高営業利益率	6.8%	7.8%	6.1%	5.1%	6.4%	1.8%	7.4%	8.1%	10.2%	9.1%	9.2%
経常利益	5,321	6,248	4,587	4,388	5,045	1,652	6,182	7,723	10,296	9,417	9,000
売上高経常利益率	6.0%	7.2%	5.1%	4.9%	6.1%	2.1%	7.8%	8.7%	11.3%	9.9%	9.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,107	4,089	4,800	2,623	▲ 8,933	▲ 1,618	21,582	6,414	8,755	9,388	8,200
売上高当期純利益率	4.7%	4.7%	5.4%	2.9%	—	—	27.2%	7.2%	9.6%	9.8%	8.2%
総資産額	109,030	109,342	110,994	109,706	101,853	106,535	102,660	105,223	118,776	112,999	
純資産額	74,341	53,611	58,919	59,229	46,789	46,674	66,539	71,371	76,643	79,200	
自己資本比率	67.7%	48.5%	52.7%	53.5%	45.5%	43.3%	64.8%	67.8%	64.5%	70.1%	
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,377	8,126	5,753	6,689	5,850	7,660	6,823	7,835	10,451	7,892	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 6,389	▲ 3,080	▲ 1,617	▲ 3,388	▲ 4,282	▲ 2,322	▲ 3,661	▲ 2,034	▲ 554	353	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3,140	▲ 1,881	▲ 5,869	▲ 2,490	▲ 3,051	▲ 180	▲ 7,565	▲ 4,578	▲ 7,084	▲ 9,965	
ROE	5.5%	6.4%	8.6%	4.5%	▲ 17.0%	▲ 3.5%	38.3%	9.3%	11.8%	12.1%	10.2%

*2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています

(百万円)		2024年度				2025年度				2025年度予想	
		1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	上期	通期
売上高	国内食品事業	16,441	32,267	49,503	64,821	16,373	32,785			33,700	67,400
	家庭用食品	3,397	6,754	10,412	13,586	3,495	6,861			7,000	14,000
	業務用食品	5,946	11,415	17,287	22,755	5,670	11,454			11,700	23,400
	加工食品用原料等	7,097	14,098	21,803	28,480	7,207	14,469			15,000	30,000
	国内化成品その他事業	1,913	3,874	6,002	7,959	2,102	4,219			4,200	8,700
	海外事業	5,548	11,582	18,382	24,199	5,098	11,149			11,800	25,300
	調整額（セグメント間消去）	▲ 277	▲ 574	▲ 1,035	▲ 1,398	▲ 316	▲ 889			▲ 700	▲ 1,400
	連結合計	23,626	47,149	72,852	95,582	23,257	47,265			49,000	100,000
営業利益	国内食品事業	1,904	3,495	5,657	6,659	2,040	3,531			3,420	7,050
	国内化成品その他事業	222	427	692	895	270	471			400	850
	海外事業	256	638	1,137	1,120	▲ 0	81			200	650
	調整額（セグメント間消去）	138	65	57	49	55	6			▲ 20	▲ 50
	連結合計	2,522	4,626	7,544	8,724	2,365	4,091			4,000	8,500
経常利益		2,927	4,786	8,241	9,417	2,531	4,368			4,400	9,000
親会社株主に帰属する四半期/当期純利益		2,370	3,255	5,834	9,388	1,825	3,361			2,900	8,200

*2025年度より、従来報告セグメントごとに配分していなかった全社費用の一部を主に海外事業に配分しています。
 上記2024年度の営業利益は変更後の測定方法に基づいて作成した数値を記載しています。

(百万円)		2024年度				2025年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	国内食品事業	16,441	15,825	17,235	15,318	16,373	16,412		
	家庭用食品	3,397	3,356	3,657	3,174	3,495	3,366		
	業務用食品	5,946	5,468	5,872	5,468	5,670	5,784		
	加工食品用原料等	7,097	7,001	7,705	6,676	7,207	7,261		
	国内化成品その他事業	1,913	1,960	2,128	1,956	2,102	2,116		
	海外事業	5,548	6,033	6,799	5,817	5,098	6,050		
	調整額（セグメント間消去）	▲ 277	▲ 296	▲ 461	▲ 362	▲ 316	▲ 572		
	連結合計	23,626	23,523	25,702	22,730	23,257	24,007		
営業利益	国内食品事業	1,904	1,590	2,161	1,001	2,040	1,491		
	国内化成品その他事業	222	204	265	202	270	200		
	海外事業	256	381	499	▲ 17	▲ 0	82		
	調整額（セグメント間消去）	138	▲ 73	▲ 8	▲ 7	55	▲ 48		
	連結合計	2,522	2,104	2,918	1,179	2,365	1,726		
経常利益		2,927	1,859	3,454	1,176	2,531	1,837		
親会社株主に帰属する四半期純利益		2,370	884	2,578	3,554	1,825	1,536		

*2025年度より、従来報告セグメントごとに配分していなかった全社費用の一部を主に海外事業に配分しています。
 上記2024年度の営業利益は変更後の測定方法に基づいて作成した数値を記載しています。